

# 私たちがキリストの奥義を語れるように、祈ってください。

イザヤ51:1

## 2014(26)年 週 報

3月 9日

第2聖日

3342号

「信者の模範」

( I テサロニケ連続講演第三回)

### 聖言

あなたがたも、多くの苦難の中で、聖霊による喜びをもってみことばを受け入れ、私たちと主とにならう者となりました。こうして、あなた方は、マケドニヤとアカヤとのすべての信者の模範になったのです。 I テサロニケ1:6, 7

#### 教会の生命

教会とはすでに存在しているものではなく、生まれるのです。そして育ち、成長するものです。多くの人は教会は昔からあるものであり、伝統を守ることが重要であると考えています。教会の建設者であられる神様はそのように考えておられません。聖書の原則を通してクリスチャン各自が神様に教えられて成長するのです。ゆえに、教会の集いを死守さなければなりません。なぜなら、そこで神様は説教者を通して聖書原則を各自に悟らせてくださいます。使徒たちはそれがゆえに、終日教会に来て、果たして聖書の言葉が真実であるかどうかと調べたのです。祈ったのです。賛美したのです。確かに聖書は一人でも学べます。高度の知識を得ることができません。それは知識だけのことで、聖書原則を体得することとは別問題です。権力もなく財力もなく知識もなく全てが絶望状態のなかで、何故教会が世界に拡大したのでしょうか。それは彼らは聖書原則を悟ったと言う以外に理由は考えられません。

「こういうわけで、私たちとしてもまた、絶えず神に感謝しています。あなたがたは、私たちから神の使信の言葉を受けた時、それを人間のことばとしてではなく、事実どおりに神のことばとして受け入れてくれたからです。この神のことばは、信じているあなたがたのうちに働いているのです。」(I テサロニケ二ノ一二)

イエス・キリスト聖成伝道教会・東洋聖書神学院・聖成基督教団

牧師 山本 稔 〒653-0812 兵庫県神戸市長田区長田町1丁目2番6号

電話：FAX (078) 691-1419 郵便口座番号 01170-3-20374

<http://jchec.org/>

minoru\_yamamoto@hotmail.co.jp メール m7-inoru@ezweb.ne.jp

二〇一四年三月二日午前一〇時 礼拝 山本牧師

「力と聖霊と強い確信」 (二テサロニケ連続講演第二回)

「なぜなら、私たちの福音があなたがたに伝えられたのは、ことばだけによつたのでなく、力と聖霊と強い確信によつたからです。また、私たちがあなたがたのところへ、あなたがたのために、どのようにふるまつたかは、あなたがたが知っています。」

(二テサロニケ一ノ五)

福音は話が上手か下手で決まるのでありません。「へ福音自体にある力と聖霊とまたへ私たちとして持つ大きな確信へ絶対的な確かさ」によるのです」(詳訳)。テサロニケの教会はなにもないところから三回の安息日にわたつて福音を語つたことで建設されました。その秘訣と原動力は人間の言葉でなく神の御言葉である聖書の中に取りました。私たちの教会の成長の鍵は聖書原則を各自が聖書の中から掘り出すことです。

二〇一四年 三月五日午後七時 祈禱会 山本牧師

「罪の結果」

「これはその預言者たちの罪、祭司たちの咎のためである。彼らがその町のただ中で、正しい人の血を流したからだ。」(哀歌四ノ一)

宗教学の責任は大きい。エレミヤの時代も全ての預言者が偽の預言を語り、国を滅びに追いやる。何故か。それはエレミヤの言葉を神の言葉として受け入れず、人間の受け入れ易い言葉を神の言葉としたからである。神の言葉と人間の言葉の見分け方は神の言葉は必ず成就する。また、神の言葉は聖書を通して語られるのである。

## 宣教⑫

第三課 歴史の主人公になられた神

—世界宣教の歴史—

三、六 近代宣教の新たな波

ラルフ・ウインターは紀元一八〇〇〜二〇〇〇年の二〇〇年間をプロテスタント宣教史における三回の爆発的進展を中心に三つの時代に区分している

一、海岸宣教時代一七九二年 ウィリアム・ケアリー

西欧園優勢地理学的戦略

二、内陸宣教時代一八六五年 ハドソン・テラー

中国奥地伝道団 信仰による宣教 (faith mission)

三、未伝道部族への宣教時代一九三四年 タウンゼンドとマクギヤラン 地域概念から「種族」概念へ

三、六、一

ウィリアム・ケアリー(一七六一〜一八三四)

イギリスの貧しい靴修理職人出身

敬虔主義、エリオット、ブレインードの影響を受ける。独学でギリシヤ語、フランス語、オランダ語を習得。福音が伝えられていない大陸の地図を壁に貼って祈った。「異教徒の改宗のためにクリスチャンが様々な手段を用いるべき義務の探求」という小冊子で専門の宣教団体と宣教委員会の必要性を力説した。

アジア、アフリカ、アメリカなど未伝道地域を詳細に調査し、面積、人口、文化、宗教など統計資料を作成し、地域教会に宣教に参加するよう促した。宣教に対する当時の神学的理念(使徒だけに与えられた大宣教命令、故国の働きを優先すべき)に反論した。バプテスマ宣教教会の初代宣教師としてインドのカル Катタへ派遣された。同労者とともに言語学を教え、聖書翻訳、印刷の働きを行った。旧・新約聖書を二つの言語(ベンガル語、サンスクリット語、マラーティー語)に翻訳し、聖書の一部を四六の方言で翻訳した。シラムプル大学を設立した。「偉大な

ことをなされる神に期待し、  
神のために偉大なことをし  
よう(イザヤ五四ノ二、三)  
というスローガンを残す。

学生ボランティア運動の先  
駆けとなるアメリカ海外宣  
教委員会(アメリカン・ボード

: American Board of  
Commissiners for

Foreign Missions)の前身で  
ある「干し草祈禱会」

(Haystack Prayer Meeting)  
結成に影響を与える

(ワイ・ミッシンションより)

**第十四回癒し五〇日連続祈禱**

一月二六日(日)～二月一六日(日)

午後一時～午後一時半

(祈りの後、楽しいティーで休憩)

場所

教会一階(気軽に参加して共に祈りま  
しょう)